



東北大学



2014年8月19日

報道機関 各位

東北大学病院

東日本大震災による心の傷に漢方薬が効果あり -心的外傷後ストレス障害に新たな治療法-

東北大学病院(下瀬川徹病院長)漢方内科(石井正科長)の高山真准教授のグループは、東日本大震災により生じた動悸や不眠、感情不安定などの症状に対して、心身のバランスを整えるために、漢方薬「柴胡桂枝乾姜湯^{*}(さいこけいしかんきょうとう)」が有効であることを示しました。大震災などの大きな出来事により生じた心の傷に対して、漢方薬が治療方法の一つとなることを日本で初めて明らかにした重要な成果です。本研究結果は2014年3月24日、『*Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine*』誌(電子版)に掲載されました。

【研究概要】

東日本大震災により多くの方々が心に傷を受けました。心の傷は、体にも様々な症状を引き起こし、心的外傷後ストレス障害という病気を発症します。

本研究には、震災後に新たに恐怖・緊張感・パニック・動悸・不眠・吐き気・感情不安定・ふらつき感などの症状を発症した43名の患者さんの協力を得ました。患者さんは、研究の説明を受けた後、漢方グループ(21名)と待機グループ(22名)に分けられました(図1)。漢方グループは、漢方薬(柴胡桂枝乾姜湯)7.5gを1日3回に分けて2週間内服しました。待機グループは、症状増悪時の対応などを十分に理解した上で、2週間の治療待機をお願いしました(図1)。症状の変化は、アンケートによる点数で評価しました(表1)。

評価の結果、漢方グループでは、2週間の漢方薬内服により症状の評価点数が平均49.6点から25.5点へと改善しました(図2)。待機グループでは、平均43.7点から39.3点とほとんど変化がありませんでした。このことから、心身のバランスを整える柴胡桂枝乾姜湯は、震災後の心的外傷後ストレス障害の症状に対して有効であることを確認しました。

心的外傷後ストレス障害の治療では、認知行動療法や抗うつ剤による薬物療法が

行われます。しかしながら、被害の大きな災害の現場では認知行動療法は事実上実施困難な場合があります。また、抗うつ剤による薬物療法は、効果が現れるまで2週間以上の期間を要する上、自己中断による離脱症候群の報告もあり、専門医でない場合には医師側・患者側ともに用いにくいという側面もあります。今回の成果から、今後はこのような疾患に漢方薬治療も選択肢の一つとなる可能性があると考えられます。

【お問い合わせ先】

東北大学大学院医学系研究科

総合地域医療研修センター

准教授 高山 真

電話番号 :022-717-7507

Eメール :takayama@med.tohoku.ac.jp

【報道担当】

東北大学病院広報室

電話番号 :022-717-7149

ファックス :022-717-8931

Eメール :pr@hosp.tohoku.ac.jp

【補足説明】

※ 柴胡桂枝乾姜湯

柴胡、黄芩、栝楼根、桂皮、牡蛎、甘草、乾姜など 7 種類の生薬を含む漢方薬。

自律神経失調症や更年期障害、不眠症、動悸などの症状に対して使用される。

氏名/性別/年齢

この1週間の状態にあてはまる欄に○をつけてください。

(答に迷われた場合は、最も近いと思ものを選んでください。)

0:全くなし、1:少し、2:中くらい、3:かなり、4:非常に

(得点は0点~88点、高得点ほど重症)

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. どんなきっかけでも、そのことを思い出すと、その時の気持ちがぶりかえしてくる2. 睡眠の途中で目が覚めてしまう3. 別のことをしていても、そのことが頭から離れない4. イライラして、怒りっぽくなっている5. そのことについて考えたり思い出す時は、なんとか気を落ちつかせるようにしている6. 考えるつもりはないのに、そのことを考えてしまうことがある7. そのことは、実際に起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする8. そのことを思い出させるものには近よらない9. そのときの場面が、いきなり頭にうかんでくる10. 神経が過敏になっていて、ちょっとしたことでどきっとしてしまう11. そのことは考えないようにしている | <ol style="list-style-type: none">12. そのことについては、まだいろいろな気持ちがあるが、それには触れないようにしている13. そのことについての感情は、マヒしたようである14. 気がつくとも、まるでその時にもどってしまったかのようにふるまったり、感じたりすることがある15. 寝つきが悪い16. そのことについて、感情が強くなりこみあげてくることがある17. そのことを何とか忘れようとしている18. ものごとに集中できない19. そのことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある20. そのことについての夢を見る21. 警戒して用心深くなっている気がする22. そのことについては話さないようにしている |
|---|--|

表 1 症状のアンケート内容

患者さんの症状を、上記アンケートの 1~22 の各項目について、「全くなし(0 点)」から「非常にある(4 点)」の 5 段階で評価した。25 点以上で心的外傷後ストレス障害を疑う。

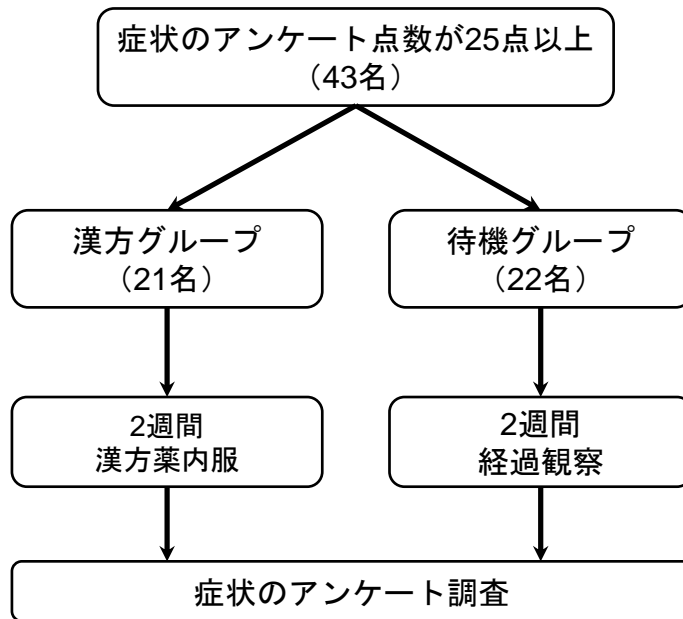


図1 研究の流れ

恐怖・緊張感・パニック・動悸・不眠・吐き気・感情不安定・ふらつき感のいずれかを有する成人男女のうち、表1のアンケート内容得点が25点以上の43名の患者さんに協力を得た。漢方グループ(21名)と待機グループ(22名)に分かれてもらい、漢方グループは、柴胡桂枝乾姜湯7.5gを1日3回に分けて2週間内服した。待機グループは、2週間の治療待機をお願いした。症状の変化は、症状のアンケートによる点数で評価した。

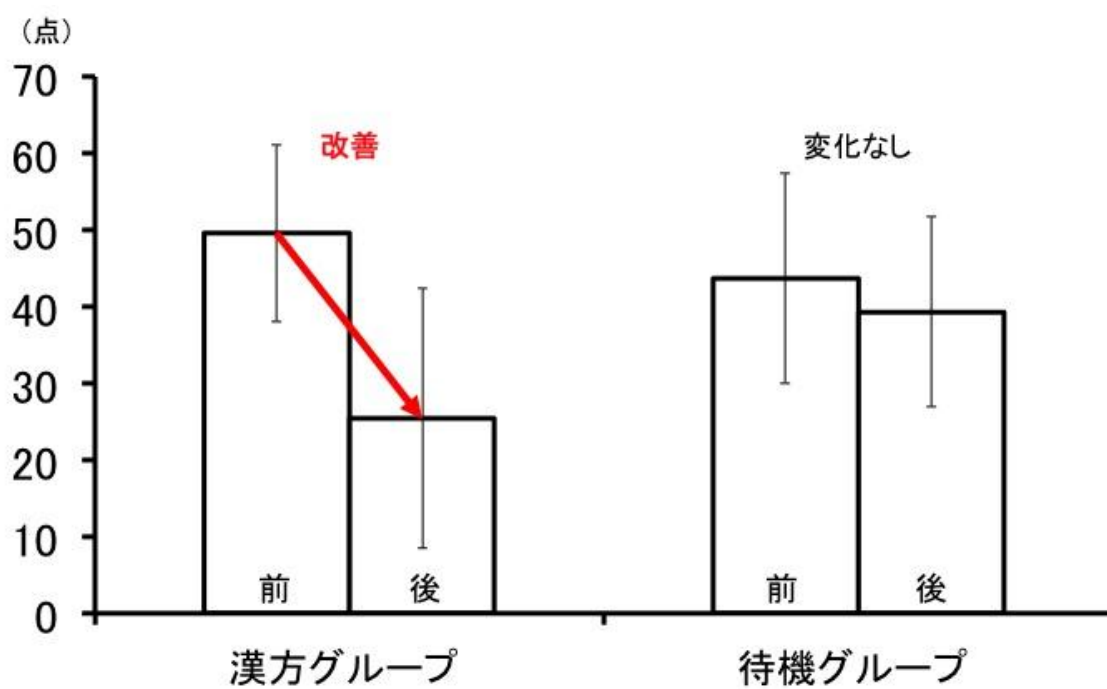


図2 症状のアンケート点数の変化

漢方グループでは、漢方薬内服により症状の評価点数が明らかに改善した。待機グループでは、ほとんど変化がなかった。

【論文題目】

Treatment of posttraumatic stress disorder using the traditional Japanese herbal medicine Saikokeishikankyoto: A randomized, observer-blinded, controlled trial in survivors of the Great East Japan earthquake and tsunami.

「漢方薬柴胡桂枝乾姜湯による PTSD の治療:東日本大震災生存者におけるランダム化比較試験」

【著者名】

Takehiro Numata, Shen GunFan, Shin Takayama, Satomi Takahashi, Yasutake Monma, Soichiro Kaneko, Hitoshi Kuroda, Junichi Tanaka, Seiki Kanemura, Masayuki Nara, Yutaka Kagaya, Tadashi Ishii, Nobuo Yaegashi, Masahiro Kohzuki, Koh Iwasaki.

沼田健裕、申光范、高山真、高橋里実、門馬靖武、金子聡一郎、黒田仁、田中淳一、金村政輝、奈良正之、加賀谷豊、石井正、八重樫伸生、上月正博、岩崎鋼

【掲載誌名、巻、号、ページ】

Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine.

2014;2014:683293. doi: 10.1155/2014/683293. Epub 2014 Mar 24.